

道後文京地区活性化計画(道後文京地区都市再生整備計画事業)

交流型観光地の創造、高次都市機能の向上、安全で安心なまちづくりによる「住んでよし、訪れてよしのまち まつやま」の実現



- 松山市では、郊外部の宅地開発や大規模商業施設の立地等、市街地の拡散が起こり、まちの活力が低下しています。
- 道後文京地区は、観光や医療、教育施設が集積していますが、新たな観光拠点の確立や医療環境の向上に取り組み、中心市街地と観光地を結ぶ動線上に人と車と自転車の空間を創出し、人に優しい移動環境づくりが必要となっています。
- 道後温泉施設の整備や松山赤十字病院の建替による高次都市機能を向上させ、区域内の居住誘導を促すことで、当地区を拠点としたコンパクトシティの実現を図り、「住んでよし、訪れてよしのまち まつやま」の実現を目指しています。



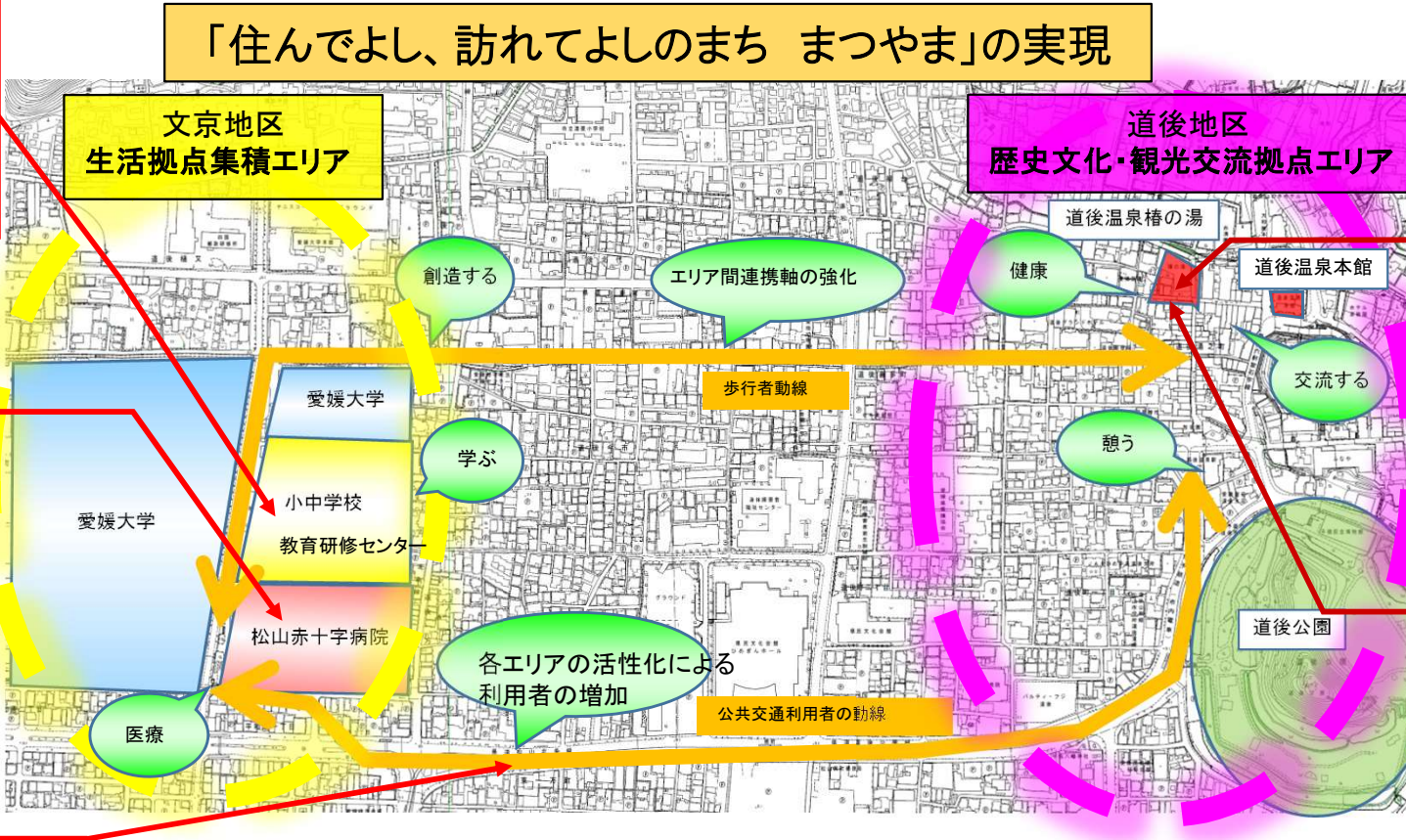
効果促進施設(教育研修センター)
H26～H27年度、事業費約7億8,600万円



中心拠点誘導施設 整備イメージ
(松山赤十字病院)
H26～R3年度



街路無電柱化整備イメージ(中央循環線)
H22～R2年度、事業費約8億円



中心拠点誘導施設
(道後温泉別館 飛鳥乃湯泉)
H25～H29年度、事業費約20億円



高質空間形成(道後51号線)
H27～H30年度、事業費約1.5億円